

「()で日米首脳会談をやってほしい」

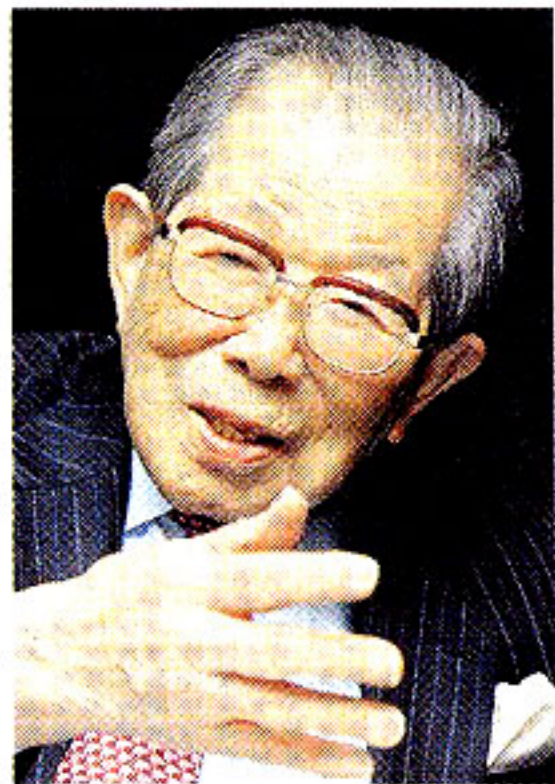
江戸時代に日本人として初めて渡米したジョン万次郎（中浜万次郎）が滞在した米マサチューセッツ州フエアヘーブンの住宅修復の先頭に立ち、五月七日「ホイットフィールド・万次郎友好記念館」として開館させた。

出漁中に遭難した土佐（高知県）の万次郎を救助した米捕鯨船のホイットフィールド船長は、記念館となった当時の自宅に連れ帰って英語などを学ばせた。その後、鎖国下の日本に

「ジョン万次郎記念館」

開館の先頭に立った
聖路加国際病院理事長

ひの はら しげあき
日野原 重明さん



戻った万次郎は開国に関与する。

そんな歴史的建物だが、船長の子孫は随分前に引越し、荒れ果てた状態で売りに出されていた。人として永遠に残すべき」。住宅買取りの募金集めに走った。

「日米文化の橋をつくったのは新渡戸稲造先生といわれるが、万次郎は生活そのものが橋渡し」（同じ

郎を知るべきと訴えた。

万次郎もかわった日米和親条約締結から百五十五年。この間、不幸な戦争もあった。海を望む記念館での会談を求めるのは「万次郎と船長が握手したように、（核兵器なき世界の追求を演説した）オバマ大統領と首相の会談ができれば素晴らしい」との思いだ。

開館式典で、現地の人々は「ドクダミ・ヒノハラ」に惜しみない拍手を送った。十月には九十八歳。「百歳の時にまた来いと言ってくれるが、その前に首脳会談があれば来る」。気力に衰えはない。山口市出身。